

仏・国際ヨットレース 北田さん(東通)日本人初参戦

「完走し航跡残したい」

東通村の会社経営者、北田浩さん(54)が、11月に行われる大西洋横断に挑戦するフランスの国際ヨットレース「ルート・デュ・ラム」に、日本人として初参戦する。単独での大西洋横断に挑むのは、日本人初参戦・初完走の快挙を成し遂げた2016年5月の「ザ・トランザット」(英国)プリマスー米国ニューヨーク、約6

500キロ)に続き、2度目。ゴールまで順調にいても約3週間には及ぶ過酷なレースだが、北田さんは11月4日のスタートを控え、「完走して航跡を残したい。若いヨットレーサーに、挑戦する大切さを伝えられたら」と、再びの偉業達成を目指し意欲を燃やす。

(橋端智和)



再び大西洋単独横断に挑戦するため、フランスで調整する北田浩さん

11月9日(日本オーシャンレーサー協会提供)

大西洋6400キロ 単独横断へ

「ルート」は、単独無寄港・無援助で世界一周に挑戦する「ヴァンデ・グロブ」と並び、フランスでは最も有名なヨットレース。1978年に始まり、4年に1度開催されている。同国北西部の港町サン・マロを出発し、約6400キロ離れた同国の海岸線であるカリブ海南部の群島・グアドループを目指す。北田さんは40歳の時にヨットの美しさに魅せられ、セーリングクルーザーを購入。津軽海峡を拠点にレースやクルージングを楽しんでいたが、徐々に長距離レースに関心をもち

ように。また、ヨットの種類で順位が修正されるレースではなく、同型艇による着順のみで争うソロレースに挑戦したい、との思いを強くしていった。太平洋地域では、このようなレースがないため、ソロレースが盛んな大西洋地域での挑戦に「かじを切り」、51歳の時にヨーロッパで最もオーシャンレースが盛んなフランスに活動の拠点を移し、レース出場を続けている。ヨットの醍醐味を「自然を相手にした挑戦ができる」と語る北田さん。17年3月に発足した日本オーシャンレーサー協会(JORA)の代表を務め、国際レースに挑戦する若いセーラーの支援活動にも当たっている。

今回の「ルート」には、全6カテゴリーに計124艇がエントリー。北田さんが出場する「クラス40」は、歴戦のプロセーラーも多く参戦するカテゴリーで、53艇が参加を予定している。レースに備え、9月上旬に現地入りし、妻と娘が命名したヨット「貴帆」でトレーニングに励んでいる。本番では、天候に左右され、睡眠もままならない過酷な状況が想定されるが、突然嵐に見舞われるなど急な天候の変化に苦しんだザ・トランザットでの経験もあり、心構えはできている。

「幾分リラックスしながら調整できている」と、順調ぶりをアピールする北田さん。本番に向けて「レースが」難しいことに変わりない。懸念は疲れによる集中力の低下。いかに最後まで体力を温存できるかが勝負だ」と気持ちを高めている。

クラス40 単胴船の規格で、主に1人乗りや2人乗りでの長距離外洋レースに使用される。主な仕様は全長12.5メートル、全幅4.5メートル、喫水3.5メートル、排水量4500キログラム以上、マストの高さ19メートル。最高時速は60キロほどにも上る。